

□終末期の栄養管理～最期まで食べられる幸せを支えるために

研究課題名	終末期の栄養管理～最期まで食べられる幸せを支えるために
研究期間	2020年6月中旬から7月中旬までの1ヶ月間
研究対象	当院NST活動や入退院カンファレンスで介入した患者
研究の目的・方法	<p>終末期患者の多くは、容易に悪液質に陥り、経口摂取が困難となり、栄養状態が悪化する。嚥下機能も低下し、食事の物性も考慮する必要がある。このような中、最期まで食べられる幸せを支えるために、急性期病院でのNST活動を通して私たちが成すべき役割について、NST介入患者の分析を行い、地域一体型の医療・介護連携の中で何が重要なのかを見極めて、2021年JSPEN学術集会にて報告し、関連学会誌に論文として投稿したい。</p>
研究に用いる試料・情報	<p>電子カルテやNSTシステムに保存されている患者情報から必要な情報を取得する。</p> <p>性別（男1、女2） 年齢 BMI ALB 病名 栄養管理内容（食種と静脈、経腸ルート） 経口からの投与エネルギー量 退院に関しての問題点（DNAR、ACP、AHN情報含め） 入院前の住居、施設の種類 退院先の住居、施設の種類</p>
研究責任者・担当者	栄養管理室室長 田崎亮子